

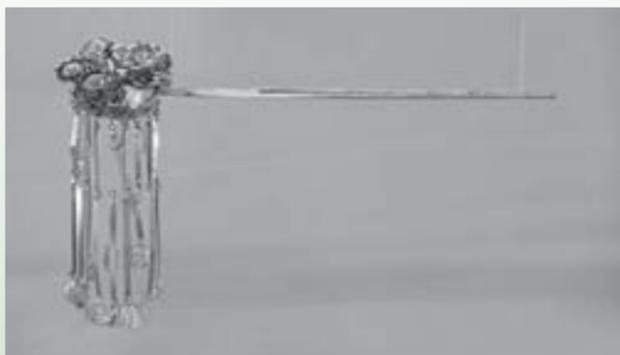
美術センター
久我記念館

企画展のご案内
(月曜休館・入館無料)

12月の久我記念館は、「櫛・簪・笄の美」展と「花のある風景」三角静夫展を開催します。

くし かんざし こうがい
櫛・簪・笄の美展

11月24日(土)～12月9日(日)



花のある風景 三角 静夫 展

12月15日(土)～23日(日)



故 秋山 庄太郎さん(左)と三角静夫さん

1月の企画展

「赤・青・黄 三色 色鉛筆画展」

1月12日(土)～27日(日)

(月曜休館・祝日の場合は翌日休館・入館無料)

緑を守り育てる

しだれ桜とモクセイ



しだれ桜



モクセイ

保存樹と保存樹林、今回は指定第1号と第2号の佐谷区観音谷のしだれ桜とモクセイの大樹です。保存樹のしだれ桜とモクセイは、福岡県指定文化財、十一面観音が祀られているお堂の直ぐ脇にあります。

このうちしだれ桜は、高さ13・36メートル、幹周りが1・52メートルで、樹齢は百年以上といわれています。十一面観音が年に一度公開される4月上旬の御開帳の頃には、毎年優美な花をつけて、善男善女にご利益とともに目の保養をさせてくれます。しかしその陰には、老樹を思いやる人たちの心が込められています。5～6年前には、樹勢に衰えが見られたことから、急ぎよ、周りに柵を巡らし、木の根が人に踏み荒されないように保護するとともに、栄養分として肥料を施しました。また、キツツキが幹に穴を開けた跡が見つかり、そこから枯れる恐れも出てきたため、木の栓をして応急処置をしたこともありました。

一方、モクセイは、樹高が12・01メートル、幹周りは1・75メートルで、樹齢はこちらも百年以上といわれています。華やかなしだれ桜とは対象的に、どっしりとした風格を備えています。品種は、キンモクセイとギンモクセイの中間種ではないかとされています。モクセイは、以前は15メートルほどの高さでしたが、冬の大雪の重みで幹が裂けたことから、保存を考えて剪定作業を進め、現在の高さに抑えているということです。

(須恵町自然教育林推進協議会)

楽しむ

考古学

21

子どもが楽しめる資料館

須恵南幼稚園の園児たちが、先月、歴史民俗資料館の見学に来ました。その際、園児と保護者に館内資料の説明をする機会がありました。小学生向けの「昔の暮らし」に沿った話では難しかったため、先生と相談して、収蔵資料の中から昔話に出てくるものを紹介することになりました。

そうすると、「かさこじぞう」のおじいさんが身に付けていた笠や蓑、「さるかに合戦」で屋根から飛び降りて猿に乗った白、「したきりすずめ」のつづらなど、調べると数多くのものが収蔵されていました。



雨や雪などを避けるために使われた笠

資料館では歴史資料の視点で取り扱うこれらの資料ですが、昔話の中に登場する「モノ」という見方も出来ます。昔話を読み聞かせするなかで、気になる「モノ」があれば、一度資料館にお越しください。

図書館の展示ケースを模様替えしました

新しい展示のテーマは「名作を『見る』」です。今では文庫本で接することの多い日本文学の名作ですが、その初刊本は装丁、挿絵ともに非常に手の込んだ造りになっています。今回は内容ではなく、装丁や挿絵を「読む」のではなく「見る」展示を行います。

- 展示資料
- ・ 福沢諭吉『学問のすすめ』
 - ・ 夏目漱石『我輩ハ猫アアル』
 - ・ 芥川龍之介『羅生門』
 - ・ 川端康成『伊豆の踊り子』
 - ・ 与謝野晶子『みだれ髪』など